

お互い様の気持ちで繋がる支援

エリアコーディネーターとの連携の実態

通学区域に因り大きく二つに分けられる

お互いに、小さなことでも情報共有をしていく

★A地区
【エリアコーディネーター】
市障害者地域生活支援センターを中心に3事業所

↓

・福祉サイドから家庭へのアプローチ(家庭訪問等)
・情報共有 など

◎B地区
【エリアコーディネーター】
特別支援学校が中心になることもある

↓

・子どもや家庭への支援方法についての相談
・情報共有 など

連携に因る効果と課題について

★A地区
【効果】
・家庭訪問をしてもらい、保護者への支援
・保健師から子どもへの身辺自立支援 など

◎B地区
【効果】
・地域の子どもの情報を把握
・在学中の子ども、保護者について
お互いが知らないことの情報共有 など

【課題】

- ・異動があった時の引継ぎの難しさ
- ・狭い地域であれば、知り合いが多く、第三者目線が必要になる
- ・特別支援教育コーディネーターの後継者問題(必要な条件がたくさんある)
- ・個人では繋がるが、関係機関全体との連携に広げられるかが課題

日々の実践から感じること..

困った時はお互い様
みんなで知恵を出し合って協力する

一人のコーディネーターとして個人として 今後のために..

- ・関係機関と良い関係を続けていくために
 - お互い様の精神、謙虚な姿勢を大切に
可能な限り関係機関の行事に参加したり、お手伝いに行ったりする。
関係機関の実態に合わせた会議の日程と時刻調整
- ・感性を磨き続ける
 - 他府県含めて、勉強会や学会への参加
他職種との繋がりが

地域支援づくりへの提案

- 中心となるのは市町 みんなで子育てをする気持ち

学校は他の学校や関係機関と連携することで貢献